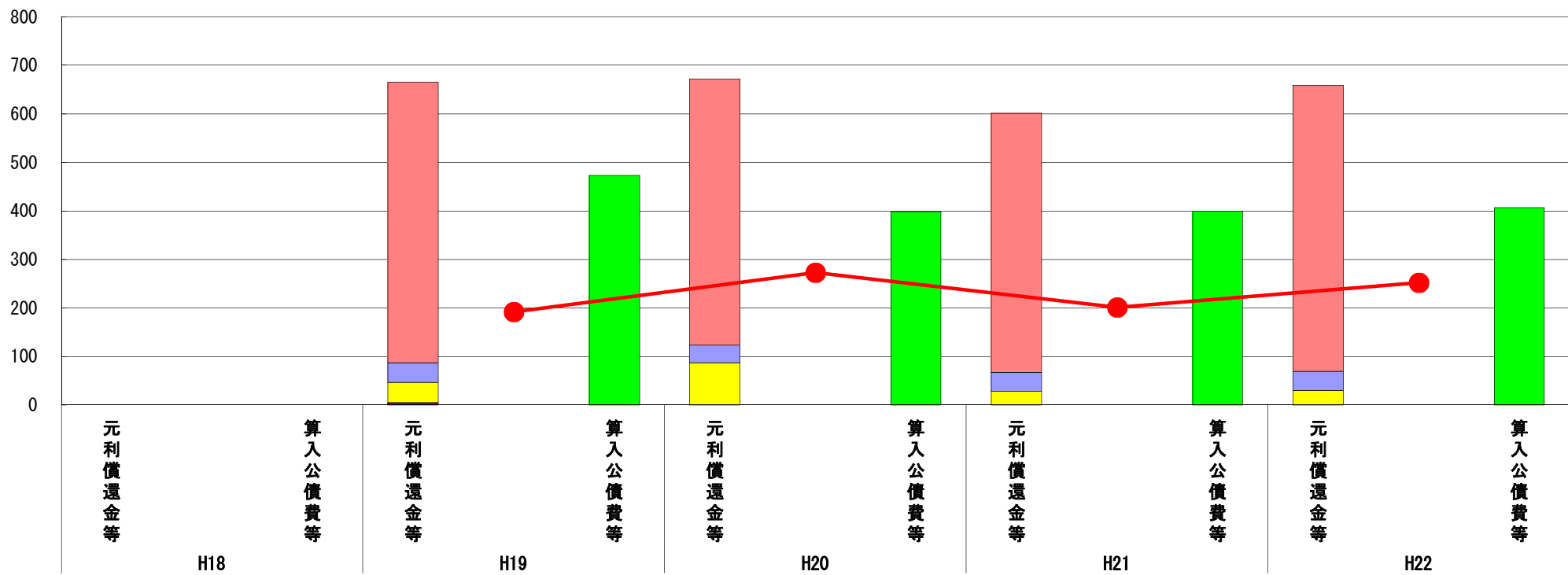


# (7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

北海道新篠津村

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等 (A)	元利償還金	-	578	548	534	590	
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	40	36	39	39	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-	
	債務負担行為に基づく支出額	-	42	87	28	30	
	一時借入金利息	-	5	0	0	-	
算入公債費等 (B)	算入公債費等	-	473	398	400	407	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	192	273	201	252	

## 分析欄

平成22年度の地方債元利償還額は、前年比10.5%上昇し、実質公債費比率上昇(H21 14.0%→H22 14.4%)の大きな要因となっているが、平成23年度以降は借入金残高は減少しており、償還金額も減少に向かうことから、改善に向かうことが見込まれる。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。